



士別ロータリークラブ会報

創立 1960・3・24 RI第 2500 地区

Vol. 36 No. 2811

2022-2023年度国際ロータリーのテーマ

2022-2023年度R I 会長 ジェニファーE.ジョーンズ



イマジン
ロータリー



かわにしの丘

R I ホームページ <https://www.rotary.org>

2022-2023年度R I 第2500地区テーマ

2022-2023年度R I 第2500地区ガバナー久木佐知子

ともに紡ごう！ロータリーの未来へ

- 会 長／細川 博司
- 副会長／神田 裕教
- 幹 事／大橋 直幸
- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:00
- 事務所／士別グランドホテル TEL0165-23-1234

2500地区ホームページ <http://rid2500.jp/>
士別RC <http://www.douhoku.jp/sibeturc/>

第2899回例会 2023年 5月 8日(月)

今日のプログラム

・普通例会 ・誕生祝い ・理事会

前回(4月24日)の記録 ・夜間例会

司 会 神田英一 会場監督
齊 唱 それでこそロータリー
本日の出席 会員 43人中 出席者 43人 出席率 100%
本日の欠席
メイクアップ
ビ ジ タ ー
ゲ ス ト
ニコニコBOX

累計 259,000円

例会予定

■ 5月例会日 [青少年奉仕月間]

- 5月 1日(月) 特別休会
- 5月 8日(月) 普通例会・理事会
- 5月15日(月) 普通例会
- 5月22日(月) 早朝例会
- 5月29日(月) 夜間例会

■ 6月例会日 [ロータリー親睦活動月間]

- 6月 5日(月) 普通例会・理事会
- 6月12日(月) 普通例会
- 6月19日(月) 普通例会
- 6月26日(月) 夜間例会

■会務報告.....細川 博司会長

皆さんこんばんは

日本のロータリークラブは米山梅吉氏が創立したとされていますが、実際はアメリカ・ダラスロータリークラブ会員だった福島喜三次氏が帰国後米山梅吉に話をもちかけたのが始まりです。しかし米山梅吉が東京RC初代会長に就任し各方面での活躍が目立ったので米山に光が当てられてきました。福島喜三次のことがもう少し知られてもいいのではと思っております。第1次世界大戦の前三井物産の社員としてアメリカに勤務していた福島喜三次(当時綿花を担当していた)は戦争が始まったら綿花をはじめ各物産輸送がままならなくなると思い、あらかじめ輸送船を確保する動きに出た。そして開戦となり喜三次の読み通り世界各国とも輸送船確保に苦慮の末その時確保していた輸送船を外国にも提供した。

この独占ではなく互恵の行為を当時の国際ロータリーの会長が「これこそロータリアンスピリット」と感動し「日本にもロータリークラブを設立しては」と提案その後帰国した喜三次は米山梅吉に相談その結果1920年日本に初めてロータリークラブが設立された。日本人初のロータリアンは福島喜三次氏であることが証明された。その後共に協力をしながら日本のロータリーの基礎を作った。

■幹事報告.....大橋 直幸幹事

1. 来月5月からは青少年奉仕月間となっております。
2. 5月21日に名寄市で開催されます、インターシティミーティングは、全員登録となっております。皆様お忙しい中にも関わらず、26名の参加となりましたこと、厚く御礼を申し上げます。
3. 来週の5月1日の例会は特別休会となっております、例会はございませんのでお間違えの無いようにお願い致します。
4. 次の週、5月8日は昼間の普通例会となっております、終了後は理事会も開催されますので、該当される方々におかれましては御出席の程お願い申し上げます。

■次年度幹事報告.....福島和秀 次年度幹事

1. 次年度の事業計画書を委員長の皆様に送付しています。地区の方から5月15日までに事業計画を送付してほしいとのことでしたので5月1日(月)を期日としています。何卒ご協力お願いいたします。
2. 次年度理事会を5月8日18:00から士別グランドホテルにて開催いたします。理事者の皆様に出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。

●被災しながらも救援に尽力するヒーローたち●

(トルコ・シリア大地震)

2月6日、午前4時過ぎ。ここ数世紀で最も死者数の多い大地震が、1分半にわたって建物が激しく揺れた」とカラバイさん(ガズィアンテプ・イペキオル・ロータリークラブ会員)は振り返ります。カラバイさんが住むトルコ南部の都市ガズィアンテプは、震源地の近く。妻とともに大声を出して二人の子どものところに駆け寄り、靴や上着、電話、カギなど持てる必需品をかき集めて玄関まで行ったときに、最初の余震が来ました。アパートから出て市外の田舎にある平屋建ての家に避難しました。一部屋に約25人が寝泊まりして寒さをしのぎ、電気はなく、冬の夜の気温は零下にまで下がります。

マグニチュード7.8の地震、そして相次ぐ余震により、トルコとシリアで数万人が命を落とし、複数の都市の大部分ががれきと化しました。家や持ち物を失いながらも何とか避難した数万人のトルコ・シリア市民と同じく、アフメット・イルケル・スアットさん(ガズィアンテプ・アレベン・ロータリークラブ会長)は行き場を失い、妻・娘と一緒に車内で寝泊まりしています。「大勢の人が屋外で寝ている」とスアットさん。「トイレも水もありません。とても寒いので、人びとは火を焚いて暖を取っています」こうした苦難にもかかわらず、カラバイさんとスアットさんは、自分たちのようにすべてを失った人びとを助けたいという思いで、すぐに市内と国内のほかのロータリー会員に連絡を取りました。ガズィアンテプでは、ロータリアンの家族が経営する学校に物資配給所を設置し、日に500人分の食事を提供しています。また、教室や廊下を宿泊所に変え、人びとが利用できるよう学校のトイレを開放しています。国のほかの地域のロータリアンたちは、食料や水、衣類、毛布、そのほかの必需品をトラックで被災地に運んでいます。震災後ずっと電気がなく、夜には町が暗闇に包まれます。「携帯電話の明かりだけで過ごしています。車のバッテリーを使って携帯電話の充電をするために、長い列ができます。」トルコ国内のロータリークラブは、テント、衣類、ヒーターなどを寄付したほか、簡易シェルターとして利用できるよう輸送コンテナを購入しようとしています。国際ロータリーのジェニファー・ジョーンズ会長は、地震から数時間後に被災地のロータリー地区に連絡し、災害救援補助金の申請を促しました。また、支援を募るために現地の救援活動に関する情報提供を呼びかけました。「私たちの根はこの地で大きく育っています」

(出典 My ROTARY)